

環境研究・環境技術開発の推進戦略（案）に係る主な意見について

1) 推進戦略（案）に反映した意見

項目	意見	対応方針
国水研の研究成果	国立水俣病研究所は国際貢献、若手育成について精力的に活動し成果を挙げているため、それらについて言及すべき。	委員の意見を踏まえ、第4章5.に国際貢献に関する記述を、第4章7.に若手育成に関する記述をそれぞれ追記する。
統合領域の研究のあり方	統合的な研究開発を推進するためには、分野横断的チームを編成する必要があるが、それだけでは不足。統合的な視野に立って研究開発を行うことが重要となる。	委員の意見を踏まえ、第3章1.に統合領域の研究開発を実施するに当たって重要となる事項を追記する。
気候変動等の危機認識	全体に危機意識が不足。ティッピングポイントが迫っていることを踏まえ、スピード感と規模感が増したものにするべき。	環境分野の研究開発の方向性を示すという本戦略の目的を踏まえ、科学的観点からの対策の緊急性（不可逆的影響やリスクの増大等）について追記する。

2) 推進戦略（案）に反映しなかった意見

項目	意見	対応方針
新たな社会の構築に伴う産業や雇用の変化	<p>(1) Society5.0の推進に発生しうる雇用の喪失について推進戦略本文で言及すべき。</p> <p>(2) 新たな社会を作る際には、なくなる企業も出てくるが、新たな産業が生み出される。雇用喪失だけを取り上げるのはアンバランス。</p>	「あらゆる社会的課題の同時達成（SDGsの同時達成）」について記述済みであり、ここには雇用問題も含まれていることから、さらに強調することはしない。

以上